

# 情報 I 情報デザイン

教科書 pp.38-45

## 情報デザイン

- ・効果的なコミュニケーションや問題解決のために、

・(1)

)

- ・デザイン: design: 〈建物・機械など〉を設計する《for》 (ウィズダム英和辞典 第4版)

・(2)

)

)

・(3)

- ・すでに障壁を取り除く(なにかあったときだけ使う機能)

・barrier: 『人・グループの間の/…に対する』障害, 障壁 (ウィズダム英和辞典 第4版)

・free: 〈人・物〉への制約を取り除く (ウィズダム英和辞典 第4版)

- ・障害の社会モデル

・障がい者と呼ばれる人が生活していて問題(困りごと)を感じるのは、本人に問題があるのではなく、社会に障害となる問題があるという考え方

・(4)

)

- ・ある Web サイトで提供される(5)

) (状態)

- ・(6) (alt テキスト)

・視覚障がい者でも、画像の内容を説明した文が設定されていれば、読み上げソフトを用いて理解できる

・(7)

)

・聴覚障がい者でも、音声の内容を文字起こしされていれば、文字を読むことで理解できる

・(8)

)

・(9)

)

- ・はじめから障壁を作らない

・(10)

)

・色覚には多様性があり、人によっては区別しづらい色がある(障壁)  
・区別しづらい色を使わないようにすることが色覚バリアフリー  
・「赤色だから重要」のように、色だけの区別ではわからない人もいる(スライドでは太字化、プリントでは空白化)

・(11)

)



・言葉を使わずに絵や記号で伝えるための図

・フォントや大きさ・太さを工夫する

・判読性が高く、似た数字と区別しやすいユニバーサルデザインフォントなどがある

・フォントごとの印象

・明朝体:

読みやすく、長文向き

・ゴシック体:

目立ちやすく現代的な印象、見出しや Web サイト等でよく利用される

・ポップ体:

**安っぽいイメージ、安売りの広告などに用いられる**

・筆書き:

伝統的なイメージ、和風の見た目と相性がよい

・(12)

)

・ソフトウェアや Web サイトなどの使いやすさのこと

・usability: 使用可能のこと; 有用性; 〔IT〕(ソフトウェアなどの)使い勝手、使いやすさ、ユーザビリティ (ウィズダム英和辞典 第4版)

・ニールセンのユーザビリティ 10 原則 (ユーザビリティを高めるための原則)

・LATCH 法 (位置、アルファベット順、時間、カテゴリ、階層による分類)

・(13)

)

・利用者が見たり触れたり(操作)する部分

・情報の表示形式やデータ入力方式の操作感

表示形式による違い

図	構造や関係性が直感的にわかる (初富のコース選択等)	状態の関係を表す図
表	正確な数値を一覧できる	数値を知る必要がある表 (成績表等)
グラフ	変化や傾向がわかりやすい	数値の変化を表すグラフ (三角比(三角関数)等)